

第 13 章 多職種協働チームにおける看護師の役割

子どもや家族を中心としたチーム医療の実現に向けた看護師の役割

- ❖ 看護師は、子どもにとって一番身近にいる専門職として、子どもや家族のニーズをアセスメントするとともに一緒に治療に立ち向かう支援者として患者の生活を見守る。
- ❖ 困難なケースへのかかわりにおいては、専門職による的確なアセスメントにより、子どもや家族のニーズを見極め、チームメンバーの特性を生かしたアセスメントや支援を看護師が調整するという役割を担う。
- ❖ 治療の選択において、看護師は、子どもの権利擁護者・支援者として、子どもの気持ちを確認し、子どもの意向や心配がチームに共有されるよう努める。
- ❖ 話しあいの場において、多職種の意見を聞き、自らも看護師としての意見を述べるなど、積極的な役割をとることで、目標を子どもや家族と共有する。
- ❖ チームメンバーの情報共有や合意には、定期的なカンファレンスや日常的なやりとりを活用し、看護師の役割として、相談や調整の窓口となることが期待される。

チーム医療は、患者・家族の「質の高い医療の実現を」という声の高まりと、医療の高度化・複雑化による医療現場の疲弊への対策として、各専門職の専門性を生かした医療の実現を目標としています。小児がんでは、トータルケアの概念の元、医療がチームとしてなされるべきという理念はあったのですが、わが国の医療政策として上述した目標に基づき、より質の高いケアを実現する緩和ケアや栄養サポートなど、専門家チームの医療が診療報酬で認められるようになってきました。小児がん看護の専門職者としては、小児がん看護をサブスペシャリティにしている小児看護専門看護師の他に、がん化学療法看護認定看護師、緩和ケア認定看護師、皮膚排泄ケア認定看護師等で小児の領域で活躍している人達があります。

専門家チームだけでなく、さまざまなチーム医療において看護師は、子どもや家族の代弁者・擁護者としての役割、チームの調整役として各メンバーを繋ぐ役割、さらに、状況に応じてリーダーシップを発揮するチームリーダーの役割をとることが求められます。

13-1 看護師が患者の身近にいる専門職であることの意味

看護師は、患者の一番身近にいる専門職として患者・家族との信頼関係を築きながら、患者の生活を見守り、ともにいる存在です。入院してきた子どもや家族を理解することは、アセスメントの視点に基づいた情報収集としてなされると同時に、困難なその時に一緒に治療に立ち向かう支援者としてその場にいるということであり、

他の職種にはない看護師の独自の立場といえます。看護師は、子どもや家族の身近にいてその人の置かれている立場や状況を理解し、その時々の変化を感じ取ることで、専門職としてのアセスメントをさらに深めていくことができます。

13-2 各専門職の専門性を生かしたチーム医療における調整

対応が困難なケースにおいては、各専門職の特性や専門性を生かしたかかわりがチーム医療の醍醐味です。時には、直接的な看護ケアよりも、各専門職が子どもや家族のために力を発揮できるよう調整することが求められ、看護師が、子どもや家族と専門職を繋ぐ役割をとることが重要です。

13-3 治療選択の場における看護師の役割

入院治療や終末期ケアの選択において、看護師は、子どもの権利擁護者・支援者として、親の心配にも配慮しつつ、何らかの方法で子どもの気持ちを確認し、子どもの意向や心配がチームに共有されるよう努めます。親の心配に耳を傾け、親と一緒に看護師が支援するという立場を明確に伝え、子どもの力を伝えていくことで、親の心配が軽減されることもあります。何より、子ども自身の身に起こることを子どもが知るという意味を、親が十分理解してもらうようによく話し合うことで、看護師は子どもを支援していく役割を担っていきます。

13-4 話し合いの場において看護師が意見を述べる こと

話し合いの場において、多職種の意見を聞き、自らも看護師としての意見を述べるなど、積極的な役割をとることで、目標を子どもや家族と共有することが可能となります。専門職として、子ども・家族の理解に基づいた見解を看護師が述べ、多職種の意見もよく聞き、チームとしての合意形成を図ることで、子どもや家族の意思決定を支援することが大切です。

13-5 カンファレンスの持ち方

子どもや家族を中心としたチームのメンバーの情報共有や合意には、定期的なカンファレンスの実施はもちろん大切ですが、日常的なやりとりを活用していくこともお互いの役割を補完し合うチームメンバーの相互理解の上で欠かせません。看護師は、子ども・家族やチームメンバーの相談や調整の窓口となることが期待されます。各施設の状況にもよりますが、チームのカンファレンスの場においては、各専門職者や看護師自身の意見も述べ十分話合うことが必要であり、調整役割として、看護師がファシリテーターを務めることもあります。

文献

- チーム医療推進方策ワーキンググループ(チーム医療推進会議)
(2011): チーム医療推進のための基本的な考え方と実践的事例集, 平成 23 年 6 月.
- 細田満和子 (2012): チーム医療とは何か 医療とケアに生かす社会学からのアプローチ, 看護協会出版会, 東京.
- 内田雅代 (2012): 小児がんをもつ子どもと家族を中心とした多職種協働チームにおける看護師の役割について, 第 10 回日本小児がん看護学会 看護シンポジウム 1 講演.

